

英語の単語学習における発音と音象徴，語源の重要性 - L音とR音のイメージとニュアンスを理解する -

綾 皓二郎*

Email: aya.k2015h27@gmail.com

*: みやぎインターカレッジコープ

©Key Words 言語記号の恣意性, 音素, 音象徴

1. はじめに

多くの日本人は、英語学習においてL音(音素 /l/)とR音(音素 /r/)の弁別に難儀している。両音の弁別で、なぜこの単語ではL音/R音が用いられているかがイメージできれば、学習者の単語学習と記憶に大いに役立つはずである。ソシュールの「言語記号の恣意性」⁽¹⁾—単語の音素列と意味の間に何の関係もないという—原理に従えば、このような試みは無駄に終わる。しかし、果たして本当に言語記号は恣意的だろうか。「音」には「イメージ」や「フィーリング」、暗示的「意味」(connotation)が付随していると思わせる単語群が、実際には数多く存在する。音声学では音(sound)に意味の連想が起きる現象を「音象徴」(sound symbolism)と呼んでいる⁽²⁾⁽³⁾。

この研究は著者の英語学習に基づいているが、他方で音声学や語源学から私的な経験的知識を裏付ける説明を得たので、これらを併せた形で報告する。

2. 音象徴とは何か

音象徴は音と意味の結びつきの直接性/抽象性の程度により「オノマトペ」と「音感覚」に区分される。「音感覚」では音素より大きく形態素より小さい音素列, phonaestheme, が意味と結びついていると考える⁽³⁾。たとえば, drip はしずくがポタポタと落ち

るオノマトペといわれるが⁽⁴⁾, 他方 dr-/dr/ という音素列は, 物体が力に抗しきれずに動く様子⁽⁵⁾という音感覚を表しているともいえる(後述)。

この報告では音象徴の是非については深入りしない。なぜなら, 言語習得の第一歩は, 言語特有の「音」を理解すること, 共通する「音」を持つ単語同士には共通する「イメージ」「意味」がある⁽⁶⁾ことを掴むことのほうが, 学習者には重要であるからである。

3. L音とR音の弁別と両音のイメージ

3-1. 音素配列の順序と綴りの規則性

表1は, L音/R音をもつ英単語の語頭における音素配列と綴りの規則性を示したものである。この規則性の知識があれば, 綴りを間違えることはなく, 両音の弁別に注意を集中できる。実は, この表には弁別が問題にならない音素列がある: ul と ur の発音では u の発音が異なる。tl, dl, stl, sr の綴りはない。英語では語頭で 破裂音 /l/ を発音すると, 次に /l/ を発音できないからである。sr という綴りもない。なぜなら, /s/ を発音してから無声閉鎖音/母音を間に挟まないと /r/ を発音ができないからである。thl も発音できない。綴りは滑らかに速やかに発音できるように決められている, スペルも口と舌の動き以上には綴ることはできない, と考えられる。

表1 英単語のL音/R音を含む語頭の音素配列(綴り)の規則性

L音 /l/	al	il	ul	el	ol							
R音 /r/	ar	il	ur	er	or							
L音 /l/	cl	gl	fl	pl	bl	shl	sl	tl	dl	thl	wr	
R音 /r/	cr	gr	fr	pr	br	shr	sr	tr	dr	thr	wr	
L音 /l/	scl	spl	stl									
R音 /r/	scr	spr	str									

3-2. L音, R音の発音上の特徴と比較

L音, R音は流音(liquid)に分類される音素である。L音は流れるような美しい子音で, 英語の音のなめらかさを代表している⁽⁴⁾。L音は, R音よりは

柔らかく, 優しく, こまやかで, 高い, 軽い, 明るい音として聞こえる。音階をみると, do, re, ..., la であり, L音がR音よりも高いことがわかる。歌でのラララは, 通常 LaLaLa の軽やかで明るいL音で

ある。R音は、優美な音とは言い難く、くぐもった複雑な音である。R音は、L音よりは固く、粗く、強い、低い、重い、暗い音として聞こえる。古代ローマ人は、R音が犬の低い唸り声を思わせるので、Rを「犬の文字」と呼んでいた⁽⁸⁾。現代でも漫画などで犬の唸り声はRRRRで表されている。犬は唸り声により相手を力で威嚇している、と欧米人は考えているようである。このように音素(列)は、ある程度の固有な感じとか意味をもって単語を構成していること、L音とR音のイメージは、ほとんど反対に近いことが推測される⁽⁹⁾。

3-3. 最小対語におけるL音とR音のイメージ

本研究の発端となったのはlambとramという同じsheep(羊)という名前のカテゴリーに属する最小対語で、なぜ子羊がL音で始まり、雄羊はR音で始まるか、という多年の疑問である。この疑問はlambとramの画像を検索することで直ちに氷解した。両画像を一瞥してどのようなイメージが浮かぶだろうか。羊を日常ほとんど見ることない日本人でも、lambには「柔和さ」の、ramには「力強さ」の視覚イメージを抱くのではないだろうか。

このイメージは個人的で恣意的なものか/英語ネイティブに共通に認められるものかを考える。ネイティブの子どもたちはlambを見かけたときに、伝承童謡Mary Had a Little Lambを歌うときにlambという言葉に「柔和さ」を感じ取っているのではないだろうか。William Blakeはthe Lambという詩でHe is meek & he is mildと詠んでいる(1789)。他方ramはMale sheep are often used as symbols of virility and powerとされている。雄羊の突撃には相当な威力があるとされ、動詞ramには力でぶつかる/押すという意味がある。古代ローマ軍の兵器の一つに破城槌(battering ram)があるが、この先端には硬い鉄/青銅でできたramの頭の像が取り付けられている。またアメフトやラグビーなどのスポーツチームで、名前にRams/ロゴにramの顔を用いている場合が少なからず認められる(the Los Angeles Ramsなど)。

以上から、子羊の「柔和さ」をL音(文字)で、雄羊の「力強さ」をR音(文字)で表すことが、英語文化圏での共通認識であり社会的な慣習となっていると推測できる。これは名前に関するクラテュロスの本性説とヘルモゲネスの慣習説⁽¹⁰⁾⁽¹¹⁾の並立を示す一例といえるのではないと思われる。

3-4. L音とR音の弁別と音のイメージの利用

日本語にはL音とR音の音素としての区別がないので、日本人には音だけでの弁別は難しい。そこで、両音の弁別に音のイメージの助けを借りることができれば、弁別の感度を高めることが期待できる。

語頭にL音/R音を含む音素列は、L音/R音の基本イメージに、前後に付加された子音/母音の音素のイメージが加わって、意味にニュアンスの違いをもたらしていると考えられるので(後述)、この知識を音の弁別と単語学習に利用するのである。

音象徴の詳しい検討の前に次の注意をしておく。

- 一つの音素(列)にイメージは一つではなく複数ある。また重なり合うものもある。どのイメージかは、文脈や状況から判断しなければならない。
- LとRの交替や混同が見られる単語がある。
- 例外と見られる単語や、イメージでは説明できない単語がある。
- 音のイメージは、英語固有のものだけでなく、他言語と共通のものもある。

なお、印欧祖語の推定形については、語の先頭にアステリスク * を付けて表記する。

4. 様々なL音のイメージをもつ単語群

L音は、流体(liquid)の本性である「流れ」や「波動」から連想されるイメージが強い。ここで流体は液体と気体の総称であることに注意する。

(1) 流体/流体の「流れ」/流体中にある「動き」に関連すること

L音を語頭に持つ、流体と関連する単語には、lavatory, laundry, lava, lotion, liquorなどがある。印欧祖語*bhel-「吹く、膨らむ」から由来する単語にblow, blast, ball, balloonなどがある。fl-は「空中の運動」を象徴している⁽³⁾⁽¹²⁾とされる: fly, flap, flop, flipなど。さらにfl-は「空中」に限定されるわけではなく、「流体中の(すばやい)動き」を意味する。fl-は印欧祖語*pleu-にさかのぼることができflow, fluid, flood, flushなどが生まれている(ここでpからfへの変化は、グリムの法則といわれるものである)。F音は「流れている」「ゆらゆらと揺れる」イメージがあるが、L音の後の母音が意味のニュアンスの違いを生んでいる。有声音のBは、無声音のFよりも、重い/強い/大きな音の感じを与える。またB音にはP音のような鋭さはみられない。spl-は、波(水/泥)が勢いよく跳ね返る音と動きを表す:splash, splatterなど。

(2) 光(light)も「波動」と考えられていたので、流体から連想されるイメージをもつ

L音を語頭に持つ、光と関連する単語にはlucid, lux, illuminate, lampなどがある。印欧祖語*bhel-「光る、燃える」から由来する単語にflash, flare, flame, flicker, blaze, blueなどがある。fl-は「動く光」を表し、gl-は「動かぬ光」を象徴するとの記載がある⁽¹²⁾: glow, glare, gleam, gloom, glitter, glanceなど。これらはすべて「光る、輝く」という意味を表す、印欧祖語*ghel-に遡ることができる。glass, glad, gold, yellowは、これから派生している。

(3) 「流れ」から派生して「安らぎ」「優美」「滑らかさ」「柔らかさ」「かわいらしさ」のイメージ

*leubh- は、ほっと安らぐ気持ちを示唆する音である：love, leave, belief など⁽¹³⁾。ラテン語の lallo, 英語の lullaby は「優しく」子守歌を歌うことである⁽⁷⁾。little には「小さい」の意に「かわいらしさ、いとおしさ」の感情がこめられている：twinkle twinkle little star, the little prince, the little red haired girl など。mild の「穏やかさ」、elegant の「優雅さ」、pleasure の「うれしさ」の意は L 音が与っている。「滑らかさ」をイメージする単語には、legato, glide, sleek, slick, silk などがある。sl- は「濡れて滑らかな」意味があるという⁽¹²⁾：slime, slush, slop, slip, slide など。fleece の F 音は、L 音の「柔らかさ」に「ふわふわ感」を付加している。

(4) 「流れ」から派生して「軽い」「浮く」「飛び跳ねる」イメージ

L 音を語頭を持つ単語には、light, leaf, Laputa (ガリバー旅行記に登場する飛行する島、天空の城ラピュタ) などがある。*lev- 軽い、持ち上げるからは、ラテン語 levis, Wingardium Leviosa (『ハリー・ポッター』第1巻での浮遊術の呪文) などがあり、英語では elevator, lift, lever が生まれている。float は文字どおり流体中に「浮かぶ」である。play のイメージには、「体を動かす」という基本の意味に加えて、「うれしくて飛び跳ねる」気持ちがある。

(5) 連続体の流体が平面に広がることから、L 音には「横たえる」「平らな」という派生的なイメージが生じる

語根 *log から lie, lay, law など。*plat- は「広がる」ことを意味し、plate, platform, plane, plateau, flat, flatter などが生まれている。

(6) 「集まる」「固まる」イメージ

*leg, ラテン語 legere の意味は「拾い集める」「選ぶ」「読む」であり、英語には lesson, lecture, collect, elect, intellect, select などの単語が生まれている。「塊」のイメージがある単語には loaf, lump, block などがある。cl- は「合わさる」や「くっつく」、「固まる」を象徴する：clam, clap, climb, clasp, clutch, click, clay, cloud, club など。これらも画像を見るとイメージが掴める。たとえば、climbing の画像は、人が岩壁に「しがみついている」動きを示している。gl- となると G 音により「ねばっこさ」や「丸さ」のイメージが付加される：glue, gluten, ganglion, globe など。

5. 様々な R 音のイメージをもつ単語群

R 音は、流体の特性である、外力に対して「変形」しやすく、自由に「運動」するイメージが強い。

(1) 「力」「強さ」から連想されるイメージ

力が作用すると破壊、攻撃、暴力、威嚇、騒動とな

る。これらは不規則性と突発性、やかましさを伴うことが多い。さらに、怒り、不満などの心理や、権力などの力関係にも連想が及ぶ。ruin, raid, revenge, rape, rebel, resist, revolt, riot, rupture, rob, rip, rage, robust など。*rep- *reu- *reup ラテン語 rapere 「強奪する」から rob, rip, rape などの語が生まれている。*reg- 「まっすぐ動く」から派生して「力」を表す right, rule, reign, royal, rich などの語が生まれている⁽⁵⁾。br- は「破壊／騒々しさ」を表す：break, brittle, brawl など。cr- は突然のやかましい「衝突／破壊」を表す：crash, crack, crush, crunch など。R 音は細かく壊れることを示唆する。文字 C と結びついた R は、何かしら粗く不快なものを想起させる。B 音は鈍い音、K 音は鋭い音のイメージを付加する。ラテン語 frangere, fract- 「割る／砕く」は、語源的に break と同じで、F 音はもろさを表すが、騒々しさは欠ける：fragile, fracture, fragment, fraction など。gr- は「力強く掴む／挽く」動作を表す：grab, grip, grasp, grab, grind など。gr- はまた「不平／不満」を表す：grumble, groan, grim など。pr- には「力を押しつける」様子がかがえる：press, print, compress など。shr- は「強い収縮」を表す：shrink。scr- は「きしるような音や引っ掻き」を表す：scream, scrape, scratch など。str- は「力／必死の努力」を指し示す：strength, strike, struggle など。thr- は、「すばやい激しい動き」を表す：throw, thrash など。wr- は力が加わって、「ねじれる」ような動きを表す：wrest, writhe, wreck, wrath など。write は古英語 writan 「刻む、彫る」に由来する。その頃文字は紙ではなく石や木に書いたので、引っ掻く (scratch) 力を必要とした。「書く」は、*skribh- 「切る」に由来し、ドイツ語では schreiben であるが、英語では scribe, describe, inscribe, prescribe などに現れている。ギリシャ語では graphein であるが、英語では graph, gram などに見出せる：autograph, program など。どの単語にも R 音に力を感じさせる。bright は shining strongly であり、光に強さがある。

(2) 「動き」「変化」「運動」を連想させるイメージ
力が対象に及ぶと何らかの動きや変化につながる。R の動きは変化が激しく不規則で荒っぽい。印欧祖語 *er に動く意味があり、ギリシャ語では ρ(r) は運動に関わる単語に使われる⁽¹⁰⁾：run, race, ride, rove, roam, ripple など。*kers- 「走る」からは、car, carry, cargo, current, course, courier, cursol, chariot などの語が生まれている。*dhreu-, *dhreibh-, dr- は「物体が重力やその他の力に抗しきれずに動く様子」の音象徴と理解される⁽⁵⁾：水平方向では drag, draw, drive など；垂直方向では drip, drop, droop などの語がある。*sper, *(s)preg-, spr- には「まき散らす」「広がる」イメージがある：sprawl, sprout, spread, spray, sprinkle など。語源は異なるが、spring には

「跳び出る／湧き出てくる」という動きの感じがあり、バネ、泉、春などの意味を生んでいる。

(3) 「生長／成長」「収穫」のイメージ

古代人は動植物の生長／成長の動因として何らかの「力」が働いていると考えたのではないか。動植物の生育・成長に関係する単語には R 音が含まれるものが多い: raise, ripe, reap, rain, spring など。*ghre-「生長する」grow, grass, green, grain など。G は grain, germ, gamete などの頭文字であることから、誕生のシンボルでもあるとされ、渦巻き形のデザインは、生命・成長・豊穡の象徴⁽⁸⁾という。また grow の R 音には殻や土を力で破って出てくるイメージがある。*wrad-「根、枝」は root, radish, などを生み、radical, erdicate などを派生している。*cru-, *ker-「成長する／育てる」からは cereal, create, crescent, crescendo, increase などの語が生まれている。

(4) 「曲がる」「捻る」「輪」「回転」のイメージ

*s)ker は「曲がる」を意味し、cir, cor, cre, cru, cro, cra, cre などは、いずれも曲がったものを想起させる: circle, circuit, corona, crown, crest, curb, crook, ring, rink など。*wer-, *ver-, wre-, wre- も「曲がる」「捻る」を表す: convert, divert, versatile, vortex, wrap, wreath, wrong など。rol-, rot- は「回転」を意味し、roll, rotate, scroll, enroll などがある。arc- は「弧」を表し arch, archery などの語がある。

(5) 「分ける」「繰り返し」「段階」のイメージ

*krei- は「漉す」「区別する」を表し、ギリシャ語では krainein, ラテン語では cernere には「分離する」意味がある。これらから cri-「分ける」、-cern「ふるい分ける」、cret「より分けた」の意が生まれる: certain, crisis, critic, discreet, discriminate, secret などの語がある。tri-「3つの・・・から成る／3つに分ける」: trio, triangle, triple, triathlon, trinity, trivial など。re-「再び」「・・・し直す」の意を表す接頭辞を持つ語には recall, repeat, reply, resume, rewrite などがある。-er は「繰り返し」を表す接尾辞で, chatter, flicker, twitter などの語がある。*ghredh- は「歩く」「行く」を意味し、ラテン語で gradus は「歩み」「段階」を表す: centigrade, degree, grade, gradual, progress などの語を生んでいる。

(6) その他のイメージ

R 音には、L 音とほとんど反対の「粗い／荒い」「雑な」「粗野な」イメージをもつ単語も多い: raw, rough, rude, rustic, coarse, crude, cruel など。「固い／硬い」イメージでは rigid, rock などの語がある。また「重々しい」「暗い」「恐ろしい」意味を感じさせる語もある: right, wrong, pray, grave, crucial, fright, terrify など。R 音をもつ単語には「ごみ」「くず」「ぼろ」のような悪いイメージの語も少なくない: rubbish, crumb, crap, scrap, trash, dress, rag など。

6. おわりに

音象徴や語源の知識があれば、単語学習を効率的に進めることができることがわかった。たとえば、play/pray という最小対語で、play には pl-「うれしい／楽しい」イメージが、pray には語源*prek-「嘆願する」から心理的に重いイメージがある、という違いが認められる。マザー・グースに、Rain, rain, go away, Come again another day, Little Jonny wants to play. という歌がある。ネイティブの子どもたちは生活の中でこうした伝承童謡を歌うことにより、文脈中の単語(音素列)に音象徴を感じるとともに、音のイメージを連綿と受け継いでいると想像される。

ここには『豆単』や『でる単』にはない、日常生活に根ざす「言葉の学び」がある。日本の英語教育には、発音と音象徴、語源の重要性に気づき、文脈を踏まえた単語学習が求められていると思われる。

参考文献

- (1) 町田 健:“ソシュール一般言語学講義”, 研究社(2016)
- (2) 今里智晃, 土塚典生:“英語の辞書と語源”, pp.178-191, 大修館 (1984)
- (3) 堀田隆一:“hellog~英語史ブログ”,
<http://user.keio.ac.jp/~rhotta/hellog/index.html>
- (4) バブ・ゴードン:“英語ゲームの教科書”, p.17, p.72, 新日本教育図書 (2004)
- (5) 織田哲司:“英語の語源探訪”, p.61, p.66, 大修館書店 (2011)
- (6) ロジャー・バルバース, 小川 綾 (訳):“日本人のための新英語学習法”, p.10, p.73, 集英社 (2015)
- (7) 大西英文:“はじめてのラテン語”, p.35, 講談社(1997)
- (8) L.プリューゴープト, 南条 (訳):“アルファベットの事典”, p.73, 創元社 (2007)
- (9) 西村 肇:“サバイバル英語のすすめ”, pp.40-43, 筑摩書房 (1995)
- (10) 水地 宗明:“プラトン全集 (2) クラテュロス”, p.130, 岩波書店 (2005)
- (11) G・ジュネット, 花輪 光 (訳):“ミモロジック—言語的模倣論またはクラテュロスのもとへの旅”, 書肆風の薔薇 (1991)
- (12) L.ブルームフィールド, 三宅・日野(訳):“言語”, pp.324-325, 大修館書店 (1967)
- (13) 山並隆一:“語源の音で聴きとる! 英語のリスニング”, p.192, 文藝春秋 (2011)
語源については次の辞典を参照した。
- (14) J.T.シプリー, 梅田 修(他訳):“シプリー英語語源辞典”, 大修館書店 (2009)
- (15) “Online Etymology Dictionary”,
<https://www.etymonline.com/>
- (16) “American Heritage Dictionary Indo-European Roots”,
<https://www.ahdictionary.com/word/indoeurop.html>